

# 事業計画書



1. 事業名称 地球にやさしい行動宣言推進事業  
～広がり行動宣言・ためて得する減CO2ポイント～
2. 実施主体
  - 団体名： アースコン・マツド(千葉県地球温暖化防止活動推進員・松戸在住者)
  - 事業担当課： 環境計画課減CO2担当室

## 3. 取り組もうとする課題(テーマ)と事業

### (1) 取り組む課題(テーマ)

市の設定事業「脱温暖化・循環型社会構築のための事業」に対応した提案である。

平成20年度に京都議定書第1約束期間がスタートし、洞爺湖サミット等を経て、国際的にはポスト京都議定書の枠組づくりが進んでいる。振り返ってわが国の現状をみると、温室効果ガス排出量は8.7%(2007年/1990年)増加しており、特に家庭部門のCO2排出量は41.1%の大幅増で、その削減が大きな課題である。

松戸市では、平成18年度に「松戸市地域省エネルギービジョン」を策定し、「地球にやさしい行動宣言(以下「行動宣言」)や「松戸版環境家計簿(以下「エコライフシート」)等の施策を打ち出した。さらに平成21年2月には「温暖化フォーラム」、3月に「松戸市減CO2大作戦」、そして7月には「まつど減CO2の日制定記念イベント」等の施策を相次いで展開した。今後はそれらの取り組みを、確実な成果に結びつけていかなければならない。

平成19年度にスタートした行動宣言制度は、市民が温暖化を「知る」ことから「行動する」段階にステップアップするためのツールである。この協働事業は行動宣言制度の普及、活性化をとおして、省エネルギー対策や温暖化防止活動に自主的に取り組む市民を増やすことにある。その結果として家庭部門のエネルギー消費の削減及びCO2排出量の削減が可能となり、脱温暖化社会への道が開くことを狙いとしている。

アースコン・マツドは、減CO2担当室と協働で、平成20年度より「地球にやさしい行動宣言推進事業」に取り組んできた。平成20年度は多くの講座や学習会を開催し、受講者に行動宣言を呼びかける活動を中心に、講座の企画、準備、広報、実施にいたるプロセスづくりを行った。平成21年度は、前年度の講座を整理統合して実施するとともに、イベント会場での行動宣言、減CO2の日の一斉行動宣言の呼びかけ等活動の多様化により、宣言者の急増を図った。また、既行動宣言者に対してはステップアップ講座等を実施し、そのスキルアップを図った。平成22年度は、さらに宣言者を活かす仕組みづくりを進めるとともに、楽しみながら行動宣言に取り組めるような、インセンティブにつき検討を進める。

### (2) 実施する事業：

平成22年度は、以下の5つの事業を展開する。

◎事業[I]講座受講者に行動宣言を呼びかける、本事業のベースとなる活動。

前年度の講座内容をアップデートして実施する。

◇省エネ実践講座：省エネの進め方、エコライフシートの作成方法、省エネ家電製品の選び方等の実践的な講座。年2回、市の施設等を利用して開催する。また「もっ

たいない運動協賛団体」等にPRし、出前講座を実施する。

◇親子の環境講座：引き続き、4～5回シリーズとして、夏休み期間に、市の施設を利用して開催する。家族で、「かんきょうをチェックするノート」を実践する。

◇楽しいエコ教室：「エコクッキング教室」「マイバッグ自作教室」とし、年4回、市の施設等を利用して開催する。

◇出前講座：小学校の要請に基づき開催する。メニューを更新し、小学生に対し魅力ある講座に仕上げる。

◎事業[Ⅱ]：多くの市民に行動宣言を知ってもらい、参加してもらうための活動。

◇まつど減CO<sub>2</sub>の日に、市のイベントに呼応して以下の事業を実施する。

①「(仮題)環境講座と星空観望会」を開催し、参加者に行動宣言を呼びかける。

②市内小学校を通しての家族の一斉行動宣言の呼びかけを行う。

◇イベント会場での行動宣言の呼びかけ。

緑と花のフェスティバル・松戸祭り・温暖化フォーラム等の機会を捉え実施する。

◎事業[Ⅲ]：楽しみながら行動宣言や省エネ行動に取り組めるインセンティブづくり。

◇平成21年度導入された「減CO<sub>2</sub>ポイント制度」の効果的な運用を図る。

①減CO<sub>2</sub>ポイント獲得機会の拡大。

②スーパー、コンビニ、商店等の協力を得て、魅力あるポイント交換制度の構築を進める。

◇「(仮称)小学校行動宣言制度」導入を検討する。

小学校における環境教育の推進に資するために、関係部門とともに「(仮称)小学校行動宣言制度」及び「(仮称)小学校減CO<sub>2</sub>ポイント制度」の導入を検討、実施する。学校との接点及び環境学習機会の拡大につなげる。

◎事業[Ⅳ]：宣言者を活かす仕組みづくり

◇成人環境講座：宣言者を中心に参集し、そのレベルアップを目的とした講座を開催する。市の施設を利用して実施する。

◇「(仮称)減CO<sub>2</sub>リーダー養成講座」

一定の減CO<sub>2</sub>ポイント獲得者を対象に、「(仮称)減CO<sub>2</sub>リーダー養成講座」を開催する。又その仲間を中心としたネットワークづくりを進め、行動宣言・温暖化防止活動・省エネ推進等の普及活動を更に積極的に推し進める。

◎事業[Ⅴ]：事業のマネジメント

◇行動宣言書・エコライフシート・減CO<sub>2</sub>ポイントカード等の集計・分析・事務処理体制の整備。

◇振り返り：9月・3月に実施。分析と評価。

#### 4. 事業目的と成果目標

##### (1) 事業目的：

この協働事業の目的は、行動宣言制度の活性化とそれを支える仕組みづくりである。即ち、講座、学習会、イベント及びまつど減CO<sub>2</sub>の日等での行動宣言の呼びかけ、その配布回収からフォローに至るサイクルづくり、そして減CO<sub>2</sub>ポイント制度の効果的な運用、宣言者を活かす仕組みづくりなどに協働事業で取り組む事によって、行動宣言制度を、より市民の身近なものにする事である。

## (2)成果目標

行動宣言書回収：15,000枚（A宣言1,000枚 B宣言14,000枚）

減CO2ポイントカード発行数：1,000枚

行動宣言によるCO2排出削減量：276.6 トン/年

※講座等の受講者の行動宣言を「A宣言」とし、減CO2担当室の宣言者名簿に登録を希望する者に「減CO2ポイントカード」を発行し、フォローの対象とする。年1回行動宣言項目の実施報告を求めるとともに、市主催の講座やイベントの案内をする。

※「A宣言」の行動宣言項目実施報告者、講座やイベント等の参加者にポイントシールを配付し、たまったポイントによる特典を与える。

※イベント会場での行動宣言、及び一斉行動による行動宣言を、「B宣言」とする。宣言数とCO2排出削減量を把握する。

※行動宣言による、年間のCO2排出削減量を把握する。

## 5. 協働の意義

行動宣言制度は、平成19年度にスタートした松戸市独自の制度で、平成21年3月に発表された「松戸市減CO2大作戦」の戦略課題としても位置づけられており、行動宣言制度の普及及び宣言者の増加を図ることは、行政としての重要な課題である。

一方事業提案者のアースコン・マツドにおいては、地域の温暖化防止活動の推進が、会の設立目的そのものであり、平成14年の設立以来、市民の目線に立って温暖化防止活動を進めてきている。

この両者が、「地球にやさしい行動宣言推進事業」に協働で取り組む事は、最も自然な形であり、両者にとって大変有意義な事である。

協働事業として実施することで

イ 市の広報活動や活動資金等の環境整備力、個人情報管理能力 と

ロ 提案者の有する豊富なボランティア人材と広い人材ネットワークを活かし

ハ 両者のノウハウを共有し、活用・協働することにより

事業の目的を、効果的に達成することが出来る。また

ニ 協働事業をとおして、提案者及び市は、組織または個人としてのスキルアップが達成できる。

## 6. 事業実施の役割分担

### ■ 提案者の役割

講座・イベント等の企画運営と講師を担当。エコライフシート作成指導。省エネとCO2排出削減方法の指導。省エネナビやエコワット使用方法のアドバイス。イベント会場等での行動宣言書の配布回収作業。ネットワークを活かした広報活動等。

### ■ 市の担当課の役割

行動宣言書・エコライフシートの作成と、講座・イベント会場等での配布回収。減CO2ポイントカード・減CO2ポイントシールの作成と、講座・イベント会場等での配布。行動宣言書の分析報告と宣言者のフォロー。会場、プレゼンテーション機器の準備。市民に対する広報活動等。

## 7. 事業の具体的なスケジュール

月	講座開催	イベント・運営	調査・運営
4	エコクッキング教室①	緑と花のフェスティバル参加	減CO2協働会議(月次開催)
5			
6	省エネ実践講座①		
7		減CO2の日イベント実施 小学校等の一斉行動宣言	
8	親子の環境講座①～④ エコクッキング教室②		
9	省エネ実践講座②		事業「振り返り」①
10		松戸まつり参加	
11	エコクッキング教室③		
12	成人環境講座①～②		
1	マイバッグ自作教室①		
2	減CO2リーダー養成講座 ①～②	温暖化フォーラム参加	
3			事業「振り返り」②

※会場は主として市内の公共施設を利用する。

※小学校行動宣言制度は、年度前半でその概要を検討のうえ、試行的導入を行う。

※本表は提案書作成時点での予定であり、状況によって変更することがある。

## 8. 将来の展開

◇平成22年度でこの事業は3年目を迎える。アースコン・マツドは、協働事業終了後もこの事業で整備した教材や、得たノウハウやスキルを活かして、基本的な啓発活動（前掲事業Ⅰ・事業Ⅳ等）を行い、行動宣言の推進に参画していく所存である。只多くの市民を対象にしたイベントや、減CO2ポイント制度の普及活動等については、減CO2担当室が中心になって、より多くの市民や市民団体を巻き込んだ活動にしていくことが望ましい。

そして多くの市民や市民団体、学校関係者等によって、色々の場所で行動宣言が実践され、市全体としての地球温暖化問題に関する関心が高まり、省エネルギーやCO2排出量の削減につながることを期待したい。

◇家庭部門のCO2排出量削減のためには、市民一人ひとりが環境に配慮した行動を主体的に考え、実践することが大事である。この事業は、地球温暖化を自分の問題として捉え、その問題に自主的に取り組む市民を増やすことを狙いとしており、行動宣言者が増加して、その他の施策とあいまって、地域における脱温暖化社会構築のための推進力となることを願ってやまない。

国際的には、ポスト京都議定書の枠組づくりが進んでおり、日本は2020年には1990年比で、温室効果ガス25%削減の方向を打ち出した。長期的には、さらに大幅な削減目標が打ち出されるであろう。本格的な低炭素社会に向かって行く流れの中で、国や自治体がリーダーシップを発揮することが求められるが、基本的には私たち一人ひとりが、知識と行動力を持った市民となることが、最も重要な事である。これはひとえに、「ひと・もの・しぜん」を大事にする、「もったいない」のまちづくりにもつながるものである。

## 事業の予算概要

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金 額	積算内訳
	提案者	事業費	79,500 円
	会費より	25,500 円	
	自己資金合計（a）	105,000 円	
	労力換算額計（b）	277,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	315,000 円	
	資金合計額（d）（a+c）	420,000 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

（単位：円）

	項 目	金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	教材購入費	100,000 円	実験機材・食材購入費
	報償費	150,000 円	講師謝礼 17 名
	謝礼金	10,000 円	イベント協力謝礼
	印刷製本費	30,000 円	チラシ・報告書印刷・他
	消耗品費	10,000 円	文具・実験用消耗品・他
	使用料	5,000 円	会場使用料
	賃借料	5,000 円	マシン・実験機材・他
	通信運搬費	20,000 円	郵便・宅配便・はがき・他
	保険料	30,000 円	ボランティア保険
	対象となる経費合計額（e）	360,000 円	
その他	スタッフの交通費	60,000 円	
	その他経費合計額（f）	60,000 円	
	事業費（g）（e+f）	420,000 円	収入合計額（d）と同額

# 労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
	活動計画		人数×時間×回数×500円
労 力 換 算 額	省エネ実践講座：企画・調査・準備	25,000円	3人×2H×2回×500円
	広報活動		2人×1H×2回×500円
	当日運営		4人×4H×2回×500円
	テキスト作成・展示物準備		1人×1H×2回×500円
	親子の環境講座：企画調査準備	54,000円	3人×2H×4回×500円
	広報活動		6人×2H×1回×500円
	当日運営		8人×2H×4回×500円
	テキスト作成・展示物準備		2人×1H×4回×500円
	楽しいエコ教室：企画調査準備	44,000円	3人×1H×4回×500円
	広報活動		2人×1H×4回×500円
	当日運営		4人×4H×4回×500円
	テキスト作成・展示物準備		1人×1H×4回×500円
	出前講座：広報活動	16,000円	4人×2H×2回×500円
	当日運営		4人×2H×2回×500円
	イベントの開催：企画調査準備	46,000円	4人×2H×2回×500円
	広報活動		4人×2H×1回×500円
	当日運営		15人×4H×1回×500円
	テキスト作成・展示物準備		4人×2H×1回×500円
	行動宣言用紙の配布・回収	18,000円	6人×2H×3回×500円
	減CO2ポイント制度・小学校宣言 制度等の企画・調査等	8,000円	4人×2H×2回×500円
成人環境講座：企画調査準備	24,000円	2人×2H×1回×500円	
広報活動		2人×2H×1回×500円	
当日運営		4人×4H×2回×500円	
テキスト作成・展示物準備		2人×2H×2回×500円	
減CO2リーダー養成講座：	26,000円		
企画調査準備		2人×2H×2回×500円	
広報活動		2人×2H×1回×500円	
当日運営		4人×4H×2回×500円	
テキスト作成・展示物準備		2人×2H×2回×500円	
振り返りと評価	16,000円	8人×2H×2回×500円	
	合計 (b)	277,000円	

### 教材購入費の内訳

用 途	対象事業名	品 名	金額 円
新エネルギーの 学習	親子の環境講座 省エネ実践講座 イベント（啓発展示）	燃料電池実験器具	30,000
エコ調理実習	エコクッキング教室	調理材料 600円×75名	45,000
環境学習	親子の環境講座 小学校出前講座 成人環境講座	二酸化炭素実験設備 写真パネル 2000円×5枚 教材・教本	10,000 10,000 5,000
合 計			100,000

※ 本表は、企画書作成時点での計画であり、状況によって変更する場合があります。

※ 備品は、協働事業終了後は事業担当課で保管し、イベント・学習会等で活用する。